



平成21年2月12日

各 位

東京都品川区東品川四丁目12番8号
株式会社S Jホールディングス
代表取締役会長兼社長 李 堅
(JASDAQ: 2315)
問 合 せ 先 :
取締役経営・管理本部長 木村 裕
Tel 03-5781-7311(代表)

業績予想（連結・個別）の修正及び営業外費用（為替差損）の発生に関するお知らせ

平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）における連結業績予想及び個別業績予想について、平成20年5月15日付当社「平成20年3月期 決算短信」にて発表いたしました業績予想を修正いたしました。また、平成21年3月期第3四半期において営業外費用が発生いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成21年3月期の連結業績予想の修正内容(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	27,000	2,396	2,379	1,021
今回修正 (B)	24,950	1,598	1,416	116
増減額 (B-A)	△2,050	△798	△963	△905
増 減 率	△7.6%	△33.3%	△40.5%	△88.6%

【ご参考】前期の連結実績(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
25,863	1,670	1,633	185

2. 平成21年3月期の個別業績予想の修正内容(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,350	770	680	570
今回修正 (B)	1,291	690	377	254
増減額 (B-A)	△59	△80	△303	△316
増 減 率	△4.4%	△10.4%	△44.5%	△55.4%

【ご参考】前期の個別実績(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
1,973	1,422	1,267	1,254

3. 連結業績予想の修正理由

当連結会計期間は、日本国内においては当社設立以来未曾有の景気悪化に見舞われ、また、中国においても世界的な金融危機の影響が少なからず及ぶと見込んでおります。今後、更なる信用収縮や為替レートの変動といった外的要因による当社の業績への具体的な影響が見通しづらい部分もございますが、製造業等を中心に設備投資の予算削減や凍結の動きが進んでおり、更なる稼働率の低下など厳しい経営環境が継続するものと認識していません。

このような環境のなか、営業体制の再構築とグループ構造のスリム化を目的として、平成21年4月1日以降に実施予定の当社及び当社子会社2社の合併を進めるにあたり、一時的に費用が増加する見通しであり、連結業績予想の修正をおこなうものであります。

売上高及び各利益別の業績予想の修正理由は、下記のとおりであります。

売上高については、中国においては石油化学業界向け事業を中心に全体として堅調であり、ほぼ計画通りに推移したものの、日本市場においては、経済見通しの不透明感増加に起因する顧客企業におけるプロジェクトの一部停止、新規投資の先送り若しくは予算削減傾向により、計画を下回り、当初予想に対し2,050百万円の減少となる24,950百万円となる見通しです。

営業利益についても、中国市場においてはほぼ計画通りに推移したものの、日本市場においては、クライアントの予算削減傾向のなかで計画通りの受注が難しく、稼働率が低下し原価率と人件費率が上昇いたしました。このような現状において、引き続き販売管理費などのコスト削減に取り組んでまいりますが、受注改善と稼働率の大幅な上昇は困難であると予想されるため、当初予想に対し798百万円の減少となる1,598百万円となる見通しです。

経常利益については、営業利益の減少に加え、円高の急激な進行による為替差損185百万円の計上により、当初予想に対し963百万円の減少となる1,416百万円となる見通しです。

当期純利益については、株式市場の低迷により当社グループで保有する投資有価証券売却損26百万円及び投資有価証券評価損を約74百万円計上したことに加え、従来中国子会社において特別利益として計上しておりました取引の一部に回収遅れが生じたため、112百万円の貸倒引当金（特別利益の戻入処理）を計上いたしました。また、サン・ジャパンの業績見通しを保守的に評価し、繰延税金資産391百万円を取崩すことといたしました。その他、子会社の少数株主の持分が減少することなどにより、当初予想に対し905百万円の減少となる116百万円となる見通しです。

4. 個別業績予想の修正理由

営業収益については、子会社の収益不振により、ロイヤルティ収入が減少するため、当初予想に対し59百万円の減少となる1,291百万円となる見通しです。

営業利益については、営業収益の減少に加え燃料費高沸による移動費の増加等により、当初予想に対し80百万円の減少となる690百万円となる見通しです。

経常利益及び当期純利益については、円高の急激な進行により約200百万円の為替差損が発生することなどにより、当初予想に対しそれぞれ、303百万円の減少となる377百万円及び316百万円の減少となる254百万円となる見通しです。

5. 営業外費用（為替差損）の発生について

当社、平成21年3月期第3四半期の連結及び個別業績において、円高の急激な進行による為替差損が、それぞれ185百万円、189百万円発生いたしました。

なお、当該差損につきましては、期末時点の為替相場の変動に伴い、変動する可能性がございます。

※上記の差異の内容につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上